

室蘭複合公共施設のワークショップのまとめ

1. 前提

このワークショップは、新たに建設する複合公共施設にどんな機能を導入すれば、より魅力ある施設にできるか、市民アイデアを提案することが目的となる。ここでいう機能とは、単に「図書スペース」ではなく、「静かな図書スペース」など、機能の詳細を指す。

2. 第一回ワークショップ

多世代のグループに分けて話し合いを行った。各自の意見を述べることはもちろん、幅広い世代の視点で話し合うことがねらいとなる。結果としては、全グループで図書、多くグループで子どもが楽しめる場、カフェを必要機能として挙げており、その他に発表鑑賞の場、自由に使える場の5つの機能が出された。特に図書スペース、子どもが楽しめる場、カフェへの関心が高いことがまず確認された。

3. 第二回ワークショップ

年代毎にグループを分けて、話し合いを行った。ここでの狙いは、私を超えた「私たち」という視点での話し合いと意見出しである。年代毎では、10代のグループは「学習図書館」を中心に話し合われた。20～50代は「子ども」を中心に話し合われ、60代は以上でみた全世代の関心を網羅した多視点を持つ施設イメージが抽出された。

4. イメージ図作成

シールアンケートに向けて、ワークショップの施設のイメージを起こすための作業を行った。一つのアイテム、要素などにも、イメージの断片が含まれる。類似案を統合して5つのイメージ図を作成し、パネル化した。

5. シールアンケートの実施

総数1114のシールが貼られた。そのうち、498(45%)を獲得したパネル2が最も支持された。次点はパネル3の217(19%)となった。パネル2、パネル3に共通しているのは、「子供

の遊び場への関心」と「おしゃべりや飲食ができる気軽な図書スペース」であった。パネル5も196（18%）獲得したが、その特徴として半数以上が60代以上であった。なお、シールアンケートの参加者の年齢構成は、室蘭市の現状の年齢構成に比べ、10代から50代までがやや多くなっている。

6. ワークショップの議論及びシールアンケートを踏まえた複合公共施設の姿

ワークショップのまとめとしては、特に意見やアイデアが多く出され、シールアンケートの結果からも一般市民に選ばれた、図書スペース、子どもスペース、カフェ・スペースの3つを中心に、下記のようにまとめたい。

なお、第一回ワークショップで出された5つの機能のなかでも、「発表・鑑賞の場」はミニコンサートや展示・ギャラリーなど多目的に楽しめること、また「自由に使える場」は打合せや雑談などが楽しめるなどのアイデアがでたが、これらは集約する5施設の“貸館機能”などに、そのアイデアを取り入れて実現することが可能と考える。

図書スペース

多世代、同世代のワークショップの間も、常に挙げられていたテーマであり、シールアンケートでも全パネルに何らかの形で盛り込まれるほど関心が高く、この施設の必須機能としたい。図書スペースに関しては、賑やかな図書館など、おしゃべり可能な気軽な図書館を求めている。そこにある図書も、雑誌などライトなものなどが中心となる。一方、賑やかな図書スペースと対に、学習室など静かなスペースを設ける配慮も必要となる。例えば以下のような意見が参考となる（写真はこれらのイメージ）。

- ・雑誌や新聞など気軽に読める本をそろえる。
- ・何人かで集まれる机やソファがあり、おしゃべりできるスペースがある。
- ・学習したい人や本をじっくり読みたい人は別室で。



子どもスペース

子供のためのスペースは、多世代、同世代のワークショップの間も、常に挙げられていたテーマでもあり、市民全体において関心の高いため、これもこの施設の必須機能としたい。なお、ここでのスペースは子供のための空間であることはもちろん、その同伴者にとっても居心地のよい仕掛けを持つ必要がある。また、子供のための空間においても、遊びの機能の他、学びの機能の要求も見られる。例えば以下のような意見が参考となる（写真はこれらのイメージ）。

- ・ どこからでも見え、声が聞こえる子どものスペースが中心にある。
- ・ 読み聞かせや昔遊びなどを体験できる場。
- ・ 木のおもちゃやボールのプールなど、ここならではの遊具がある。



カフェ・スペース

カフェの機能は、単独ではなく図書スペースや子供スペースとの連携が求められる。カフェは単に飲食を提供するだけでなく、ナショナルブランド、コミュニティカフェなどカフェ自体で何らかの付加価値を持つことが求められる。例えば以下のような意見が参考となる（写真はこれらのイメージ）。

- ・ 図書スペースと繋がっていて、本の持ち込みが可能である。
- ・ 遊んでいる子どもを見ながら、コーヒーを飲んでおしゃべりできる。
- ・ ロコミで来るくらいに美味しいカフェ。



多世代交流施設

最後に、以上を総合した多世代交流施設の機能について述べる。パネル2以外のアイデアは結果として、必ずしも多数の支持を得られないものもあったが、多世代交流施設を目指す上で、当然これらの視点も入れる必要がある。つまり「子供スペース」「図書スペース」「カフェ」の連動した3つの機能が中心に、そこに10代（図中「若者」）の「学習のための場所」や60代（図中「高齢者」）グループによる「一人のための居場所」などのアイデアも加えた、多機能で多様なスペースを持つ下図のような施設を目指すべきであろう。これら仕組みを持つことで、室蘭の市民意見を踏まえた新しい多世代交流が創出されると考える。

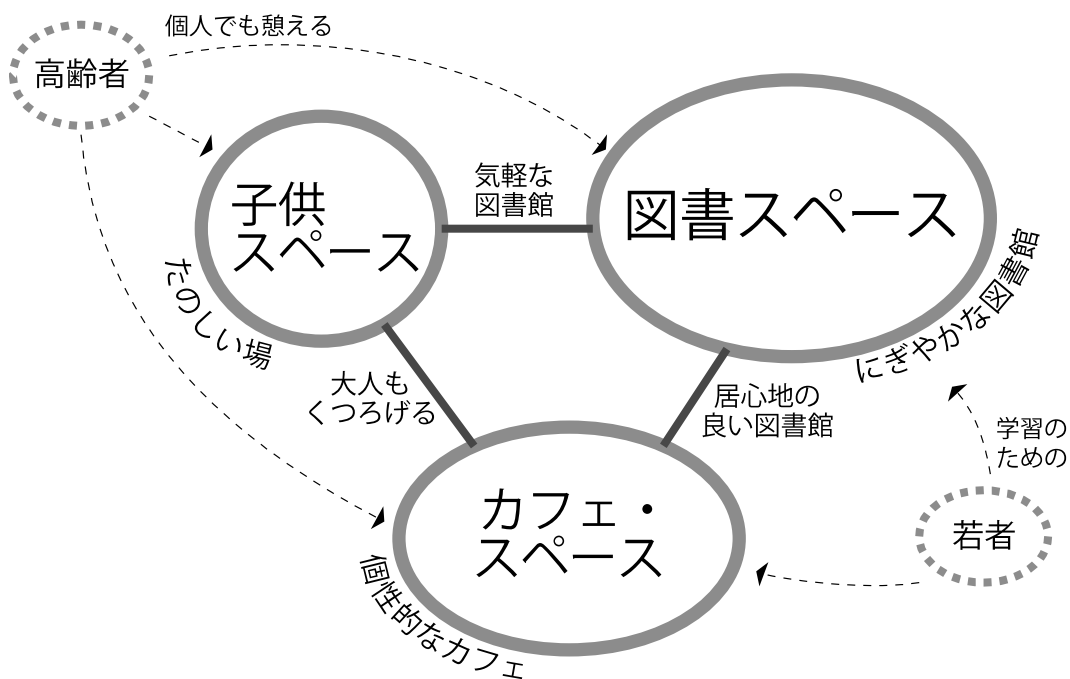


図) 多世代交流を持つ複合公共施設の概念図

写真引用元

- A. 朝日新聞 DIGITAL 「「ツタヤ図書館」って使いやすいの？ 学生が体験ルポ」 2013年4月26日
<http://www.asahi.com/national/update/0426/SEB201304260003.html>
- B. 法政大学 HP 「図書館（多摩キャンパス）」
<http://mb.hosei.ac.jp/campus/tama/toshokan.html>
- C. ボーネルンド HP 「ドキドキ川崎ルフロ店」 2012年4月29日
http://www.bornelund.co.jp/blog/kid_kawasaki/i10594
- D. 信濃毎日新聞 写真グラフ 「公立図書館は楽しいぞ 県内魅力向上への工夫」 2012年7月2日掲載
<http://www.shinmai.co.jp/photo/201207/12070201.htm>
- E. 韓国旅行観光ガイド「トクジョイ」 「cafe comma 2 Page」 2013年4月29日
http://tokujoy.com/joynews/joynews_view.html?no=924&categoryNo=1
- F. 食ベログ | 北海道 「自家焙煎珈琲 はち」 北のもみたらうさんの写真 2013年6月13日
<http://tabelog.com/hokkaido/A0106/A010601/1015445/dtlphotonst/P19521690/?ityp=1>